



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-72

(2025. 9. 18)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

とね かずゆき
上席主任研究員 刀禰 和之

03-5202-7671

s1000790@FacetoFace.ne.jp

信用金庫の金融機関預金残高

ポイント

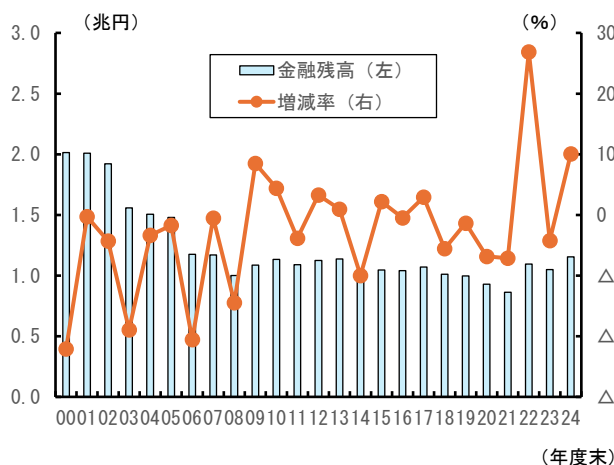
- 2024 年度末の信用金庫の金融機関預金残高は、前期比 10.0%、10 百億円増加の 1 兆 15 百億円となり、前年度から増加に転じた。
- 預金残高に占める金融機関預金残高の割合（金融機関預金比率）は、2000 年度末の 1.9% から緩やかに低下しており、2024 年度末には 0.7% となった。
- 2024 年度末の地区別の金融機関預金残高は、近畿と東北が減少、北陸が増減なしとなったが、8 地区は前年度末から増加している。
- 2024 年度末の信用金庫別の金融機関預金比率（構成比）は、0.25% 未満が 84.2% を占める一方で、1.00% 以上も 5.5% あった。

1. 全国状況

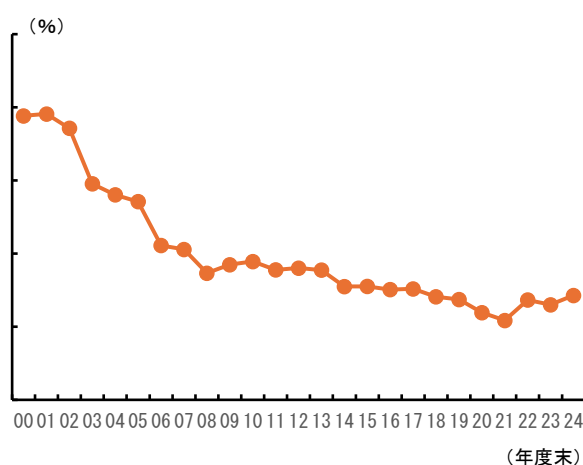
2024 年度末の信用金庫の金融機関預金残高は、前期比 10.0%、10 百億円増加の 1 兆 15 百億円となり、前年度から増加に転じた（図表 1）。信用金庫の金融機関預金は増減を繰り返しており、20% を超える振れ幅の年もある。その背景の一つに年度末の預金受入れなども想像されよう。

預金残高に占める金融機関預金残高の割合（金融機関預金比率）は、2000 年度末の 1.9% から緩やかな低下方向にあり、2021 年度末の 0.5% が直近の底となる（図表 2）。その後はやや持ち直しており、2024 年度末に 0.7% になった。預金獲得競争が激化するなか、今後も上昇傾向を辿る可能性は否定できない。

(図表 1) 金融機関預金残高の推移



(図表 2) 金融機関預金比率の推移



(備考) 1. 本稿では他業態との合併等を考慮しない。

2. 図表 1 から 4 まで信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

2. 地区別の状況

2024 年度末の地区別の金融機関預金残高は、四国（76.9%増）、関東（54.0%増）などの 9 地区で増加がみられる（図表 3）。一方、近畿（8.8%減）、東北（3.1%減）の 2 地区は前期比減少しており、北陸は増減なしであった。また 2024 年度末の金融機関預金比率は最も高い東京でも 1.1%となる。なお、2000 年度末との比較では、増加が東京（5.7%増）に留まり、他の 10 地区は 2～8 割の減少となった。

（図表 3）地区別の金融機関預金残高

(単位：億円、％)

地 区	00年度末	10年度末	20年度末	23年度末	24年度末	00年度末比		00年度末 比 率	24年度末 比 率	24年度末 1金庫残高
						増減額	増減率			
北海道	1,484	332	265	228	296	△ 1,187	△ 80.0	1.39	0.17	14
東 北	646	357	273	200	194	△ 452	△ 69.9	0.81	0.16	7
東 京	5,952	4,225	4,276	5,402	6,294	342	5.7	1.53	1.10	273
関 東	2,009	607	444	289	445	△ 1,563	△ 77.8	0.50	0.07	9
北 陸	332	65	238	233	233	△ 98	△ 29.6	0.52	0.28	15
東 海	3,149	465	723	466	688	△ 2,461	△ 78.1	0.78	0.09	20
近 畿	4,966	4,422	2,871	3,482	3,172	△ 1,793	△ 36.1	1.19	0.47	109
中 国	621	127	73	71	72	△ 548	△ 88.3	0.62	0.05	3
四 国	115	35	24	16	29	△ 86	△ 74.6	0.32	0.04	2
九州北部	127	23	14	10	14	△ 113	△ 88.4	0.35	0.02	1
南九州	715	175	75	73	84	△ 630	△ 88.1	1.46	0.13	6
全 国	20,141	10,850	9,289	10,485	11,540	△ 8,601	△ 42.7	1.94	0.71	45

（備考）沖縄県は全国に含む。

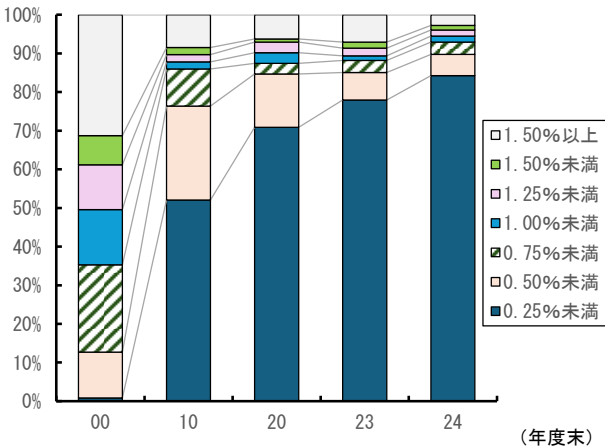
3. 信用金庫別の状況

2024 年度末の信用金庫別の金融機関預金比率（構成比）は、0.25%未満が 84.2%（214 金庫）に達した（図表 4）。

2024 年度末の平均は 0.71%だったが、中央値に注目すると 0.08%となり、信用金庫によって金融機関預金に対する取組スタンスに違いがあると想像される。実際、1.00%以上の信用金庫は 5.5%（14 金庫）に留まり、更に 4.00%以上に絞ると 1.5%（4 金庫）となる。

2000 年度末と 2024 年度末の構成比を比べると、0.25%未満が 0.8%（3 金庫）から 84.2%（214 金庫）に大きく上昇した。つれて 1.50%以上も 31.2%（116 金庫）から 2.7%（7 金庫）に低下している。

（図表 4）信用金庫別の金融機関預金比率（構成比）



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。